

# 南相馬市 市民意識調査

## 調査結果

2014年10月

南相馬市復興企画部企画課

# 目 次

<b>I 調査概要</b> .....	<b>1</b>
1 調査の目的 .....	1
2 調査期間 .....	1
3 調査対象 .....	1
4 調査方法 .....	1
5 回収状況 .....	1
6 調査結果の見方 .....	1
7 考慮すべき標本誤差 .....	2
<b>II 回答者のプロフィール</b> .....	<b>3</b>
<b>III 調査結果</b> .....	<b>10</b>
1 生活の不安・心配 .....	10
2 生活改善に必要な施策 .....	11
3 復興取組の総合評価 .....	12
4 復興取組の各評価 .....	13
5 今後の定住意向 .....	16
6 南相馬市に居住し続けたい理由 .....	17
7 南相馬市で暮らすための条件 .....	18
8 将来像の重要度 .....	19
9 力を入れるべき施策分野 .....	20
10 【産業・交流】力を入れるべき事項 .....	21
11 【子育て・医療・健康・福祉】力を入れるべき事項 .....	22
12 【消防・防災】力を入れるべき事項 .....	24
13 【環境・インフラ（社会基盤）整備】力を入れるべき事項 .....	25
14 【教育・文化】力を入れるべき事項 .....	27
15 【地域づくり】力を入れるべき事項 .....	28
16 防災・減災のまちづくりに必要なこと .....	29

## I 調査の概要

### 1. 調査の目的

本市では、未だ原発事故による影響が大きく、除染の問題や風評被害などへの対策をはじめ、地震や津波の被害により居住地域への帰還の目処が立たないまま避難生活を送る市民など、様々な地域課題を抱えている。そのような状況下で、本市の抱える課題を整理・分析するとともに、新しい魅力的なまちづくりを進めるため、今後の南相馬市について住民の意向を把握し、新たな復興総合計画の策定や予算編成の基礎資料として活用することを目的とし、調査を実施した。

### 2. 調査期間

平成 26 年 6 月 30 日（月）～平成 26 年 8 月 4 日（月）

### 3. 調査対象

本市に住民登録をしている 18 歳以上の市民のうち、無作為に抽出された 3,000 人

### 4. 調査方法

郵送による配布・回収

### 5. 回収状況

配付数①	総回収数	有効回収数②	有効回収率 ②／①
3,000	1,469	1,464	48.8%

### 6. 調査結果の見方

- (1) N (number of cases) は比率算出の基数であり、100.0%が何人の回答に相当するかを示す。
- (2) 回答の構成比は百分率であらわし、小数点第 2 位を四捨五入して算出している。したがって、単一選択式の質問においては、回答比率を合計しても 100.0%にならない場合がある。また、回答者が 2 つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、各設問の調査数を基数として算出するため、全ての選択肢の比率を合計すると 100.0%を超える。
- (3) 図表及び本文で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。

## 7. 考慮すべき標本誤差

この意向調査の結果をみる場合に、考慮すべき統計上の誤差がある。考慮すべき誤差（標本誤差）の大きさは、「回答者数（標本数）が少ないほど大きく」、また、「回答比率が低いほど大きく」なる。

下記の表は、今回の調査結果の標本誤差を示したものである。例えば、調査の中のある設問の回答数が1,464であり、Aと回答した人の比率が60%だった場合、その結果を全体（母集団）の結果として考える時に、「大小 2.56%の誤差がある、つまりAの回答比率は 57.44~62.56%である。」とみることができる。

今回の調査結果の標本誤差は下記のようになる。

n \ p	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,464	±1.57%	±2.09%	±2.40%	±2.56%	±2.61%
1,200	±1.73%	±2.31%	±2.65%	±2.83%	±2.89%
1,000	±1.90%	±2.53%	±2.90%	±3.10%	±3.16%
800	±2.12%	±2.83%	±3.24%	±3.46%	±3.54%
700	±2.27%	±3.02%	±3.46%	±3.70%	±3.78%
600	±2.45%	±3.27%	±3.74%	±4.00%	±4.08%
500	±2.68%	±3.58%	±4.10%	±4.38%	±4.47%
400	±3.00%	±4.00%	±4.58%	±4.90%	±5.00%
300	±3.46%	±4.62%	±5.29%	±5.66%	±5.77%

※ 上表は  $\frac{n-n}{N-1} \approx 1$  として算出している。なお、この表の計算式の信頼度は95%である。

※標本誤差を5%とすると必要サンプル数は **400票**となる。

注/この表の見方

標本誤差とは、今回のように全体（母集団）の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあり、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、その誤差を数学的に計算することが可能である。その計算式を今回の調査に当てはめて算出したのが、上記の表である。

標本誤差は次式で得られ、①比率算出の基数（n）、②回答の比率（p）によって誤差幅が異なる。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

{

N = 母集団数（18歳以上の市民）

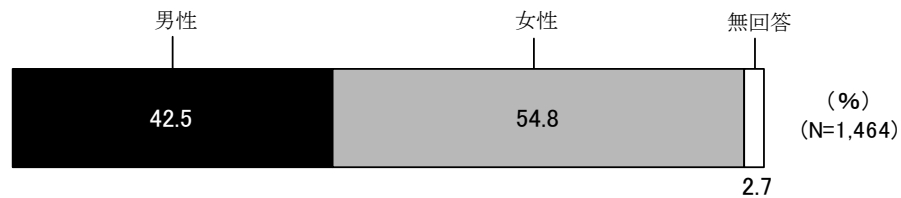
n = 比率算出の基数（回答者数）

p = 回答の比率（%）

## Ⅱ 回答者のプロフィール

### 1. 性別

問1 あなたの性別をお答えください。(あてはまる番号1つに○)

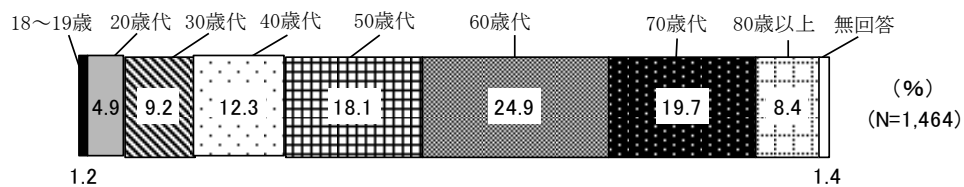


回答者の性別は、男性が42.5%、女性が54.8%となっている。

### 2. 年齢

問2 あなたの年齢をお答えください。(平成26年6月末現在)

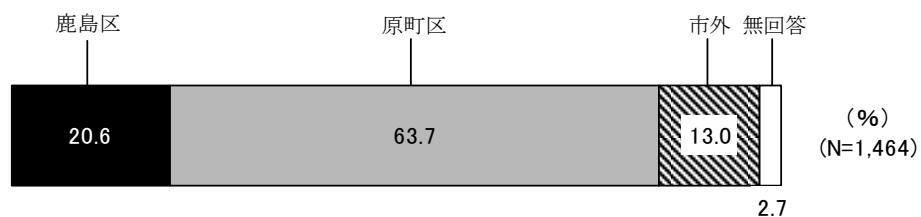
(あてはまる番号1つに○)



回答者の年齢は、60歳代の回答が最も多く24.9%。60歳以上の高齢者が全体の約半数を占める。

### 3. 現在の居住地

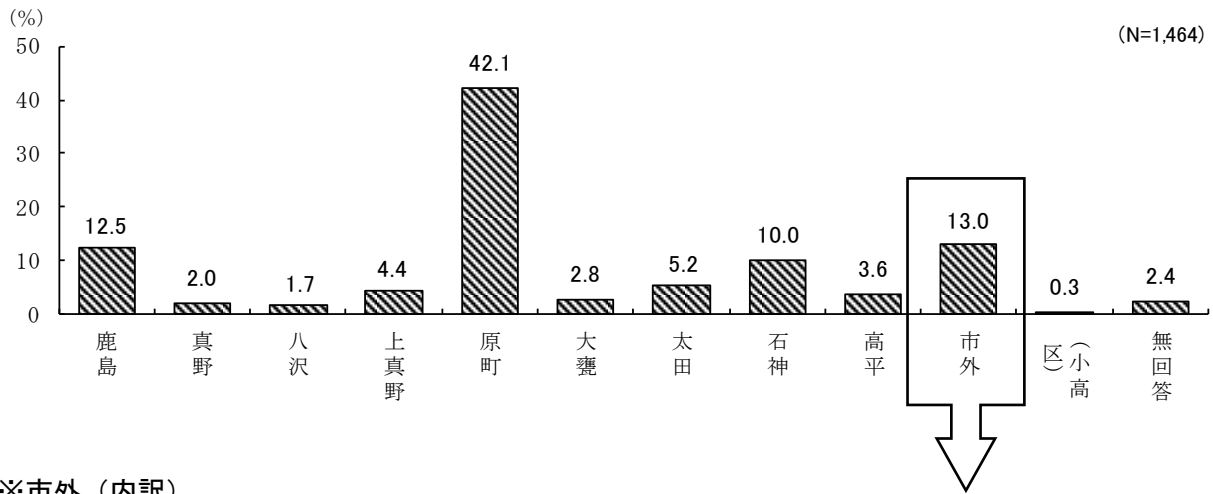
問3 現在のあなたの居住地をお答えください。(あてはまる番号1つに○)



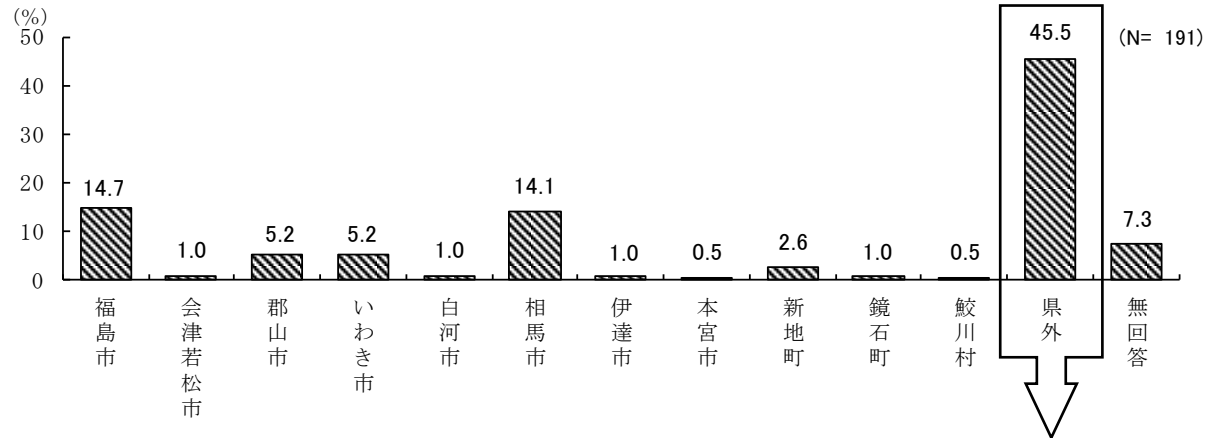
現在は、「原町区」居住者が63.7%と多く、6割以上を占める。

問3 現在のあなたの居住地をお答えください。(あてはまる番号1つに○)

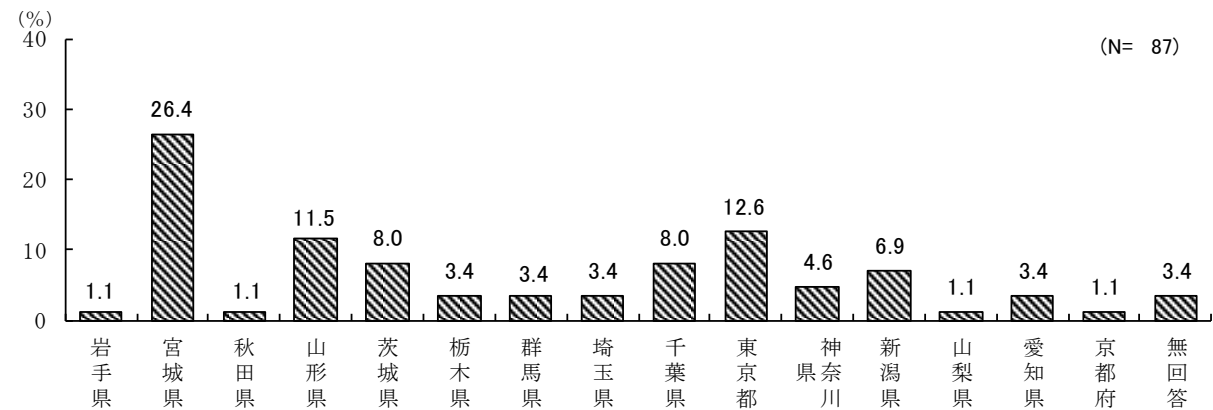
※行政区別



※市外(内訳)



※県外(内訳)

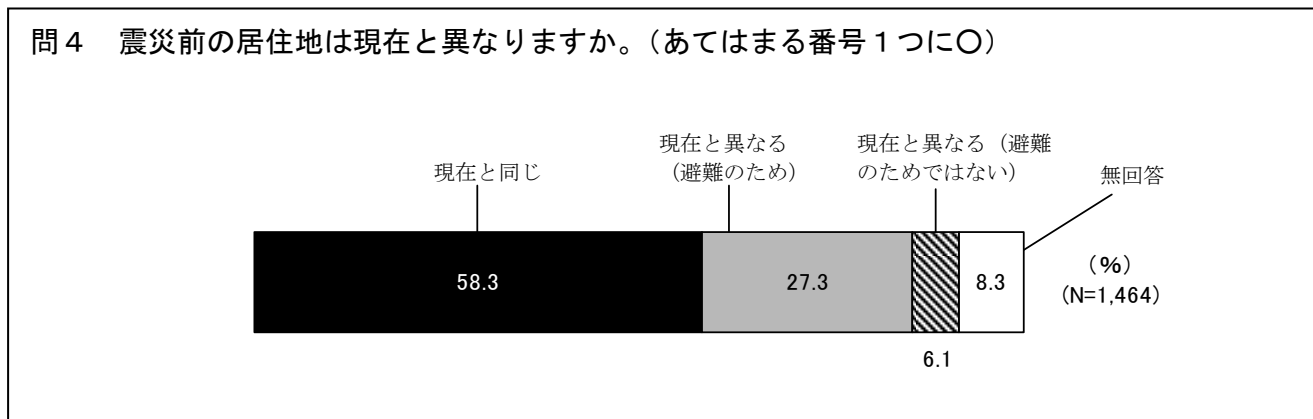


現在の居住地については「原町」が最も多く 42.1%、「市外」居住者は1割強となっている。

市外と回答した方の居住地を見ると、「県外」(45.5%)が約半数を占めており、福島県内居住地では「福島市」(14.7%)、「相馬市」(14.1%)が多い。

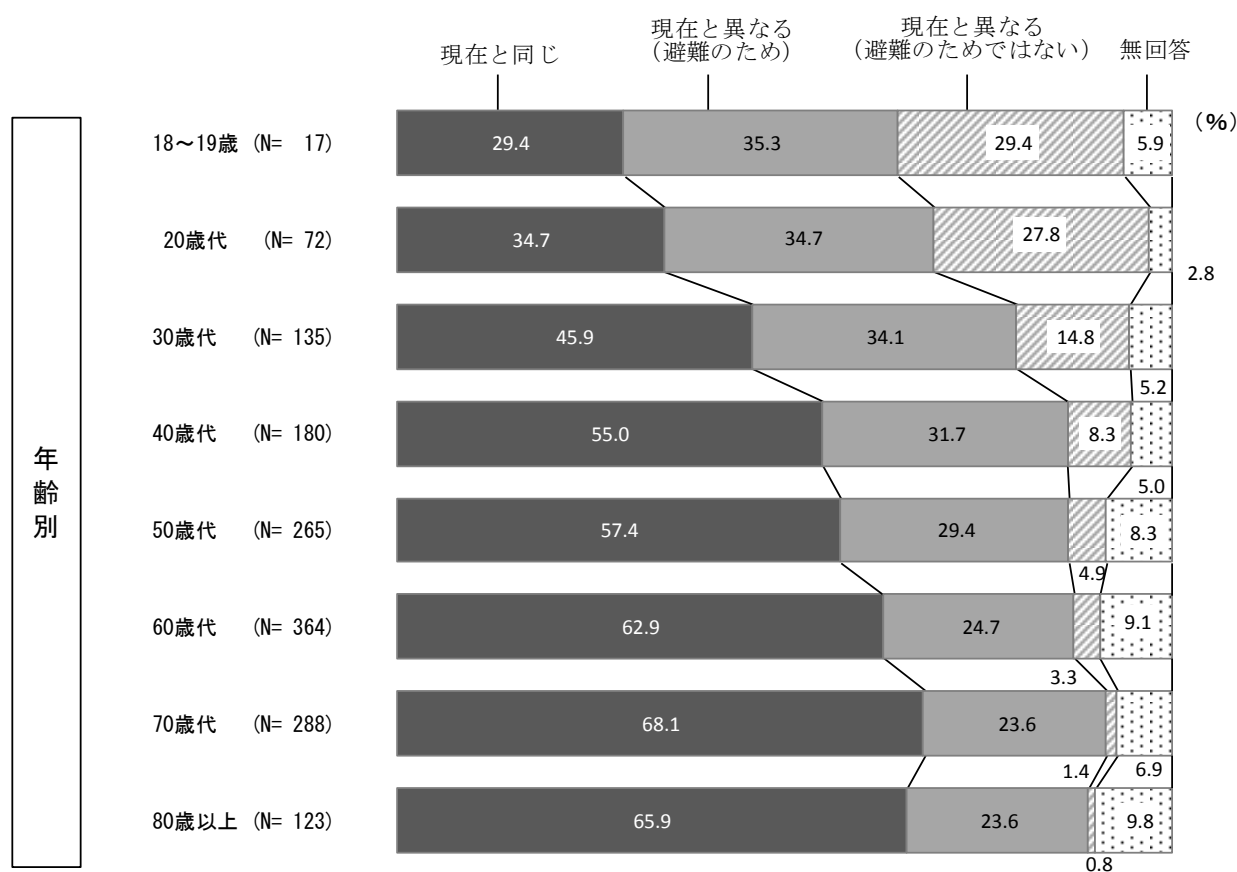
県外居住者の内訳をみると、「宮城県」(26.4%)が最も多く、次いで、「東京都」(12.6%)、「山形県」(11.5%)となっている。

#### 4. 震災前の居住地（変化）



震災前との居住地の変化について、「現在と同じ」と回答した人が 58.3%と全体の6割弱を占めており、「現在と異なる（避難のため）」と回答した人は約3割（27.3%）となっている。

#### 【年齢別／居住地の変化】

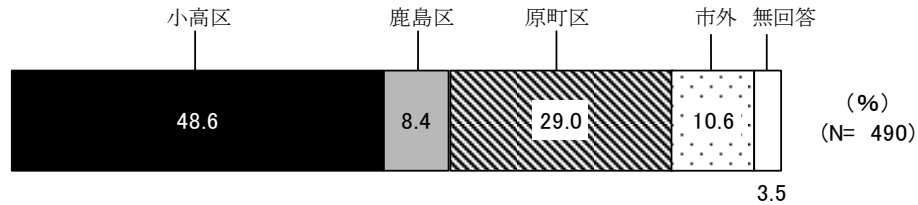


居住地の変化について年齢別にみると、震災前の居住地が「現在と同じ」と回答した人はおおむね年齢層が上がるにつれ増加傾向にあり、「70歳代」で68.1%と最も多くなっている。

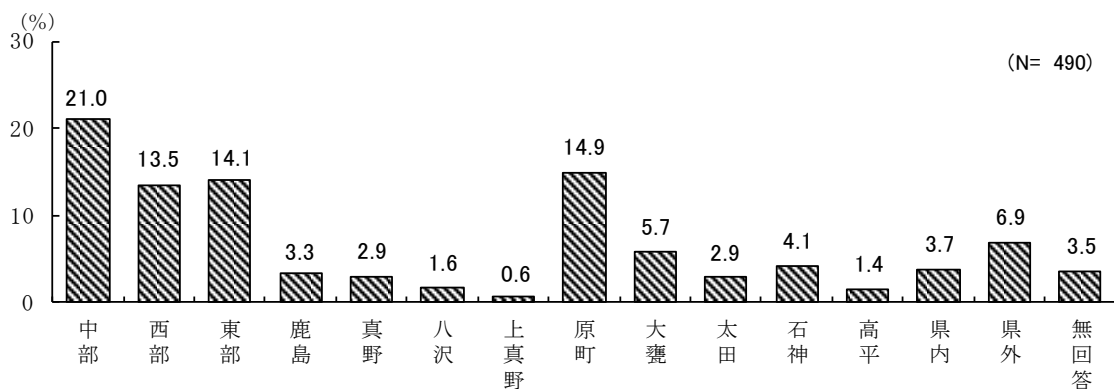
## 4-1. 震災前の居住地

【問4で「現在と異なる」(「2」または「3」)と回答した方にうかがいます。】

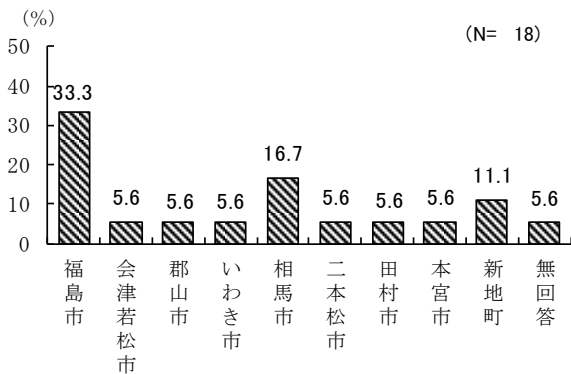
問4-1 震災前の居住地をお答えください。(あてはまる番号1つに○)



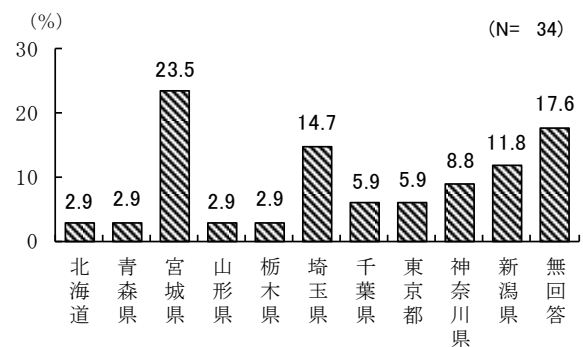
### ※行政区別



### ※県内市町村 (内訳)



### ※県外 (内訳)



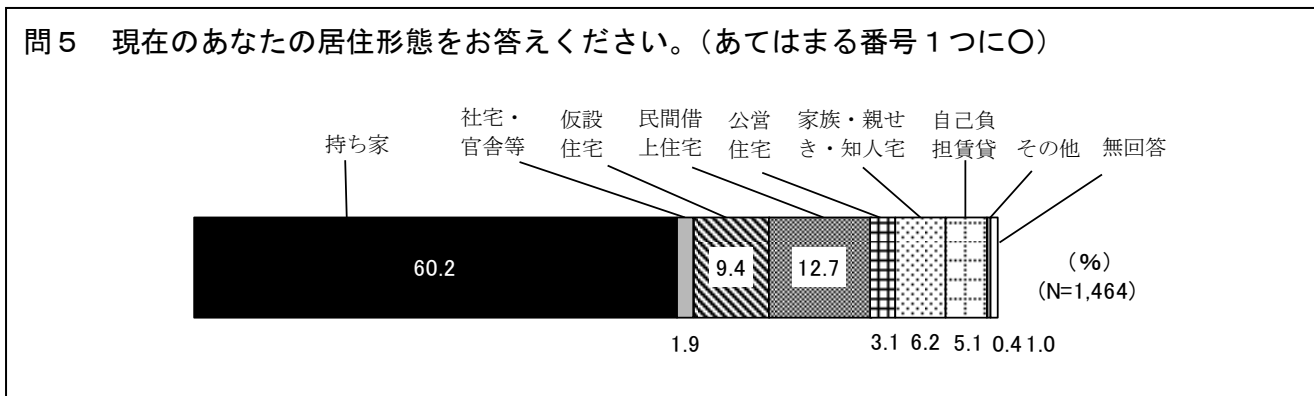
震災前と現在の居住地が異なる方の震災前の居住地は、「小高区」が48.6%と最も多く、次いで原町区が29.0%となっている。

行政区別では、「中部」が21.0%と最も多く、他「原町」(14.9%)、「東部」(14.1%)、「西部」(13.5%)が1割を超える形となっている。

南相馬市以外の県内居住地は、「福島市」(33.3%)、「郡山市」(5.6%)が多く、県外居住地は宮城県(23.5%)が最も多い。

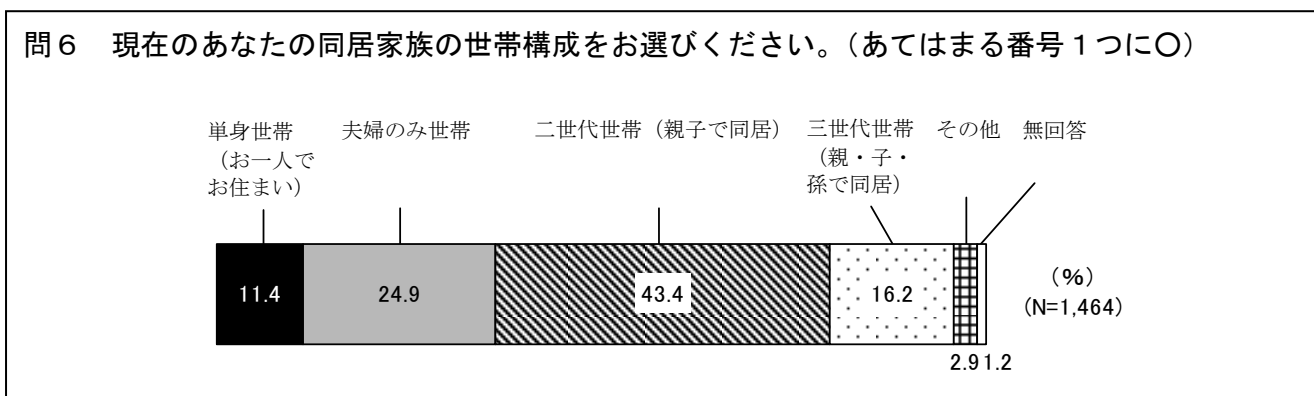


## 5. 現在の居住形態



居住形態について、「持ち家」が60.2%と過半数となっている。

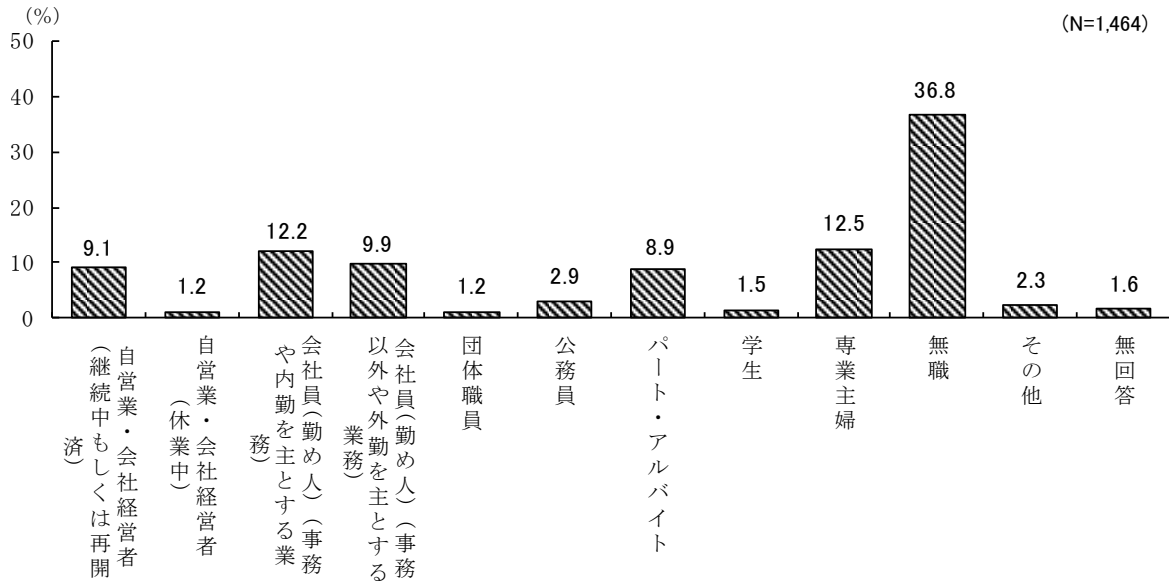
## 6. 世帯構成



同居家族の世帯構成では「二世帯世帯(親子で同居)」が最も多く43.4%、次いで「夫婦のみ世帯」が24.9%となっている。

## 7. 職業

問7 現在のご職業をお答えください。(あてはまる番号1つに○)

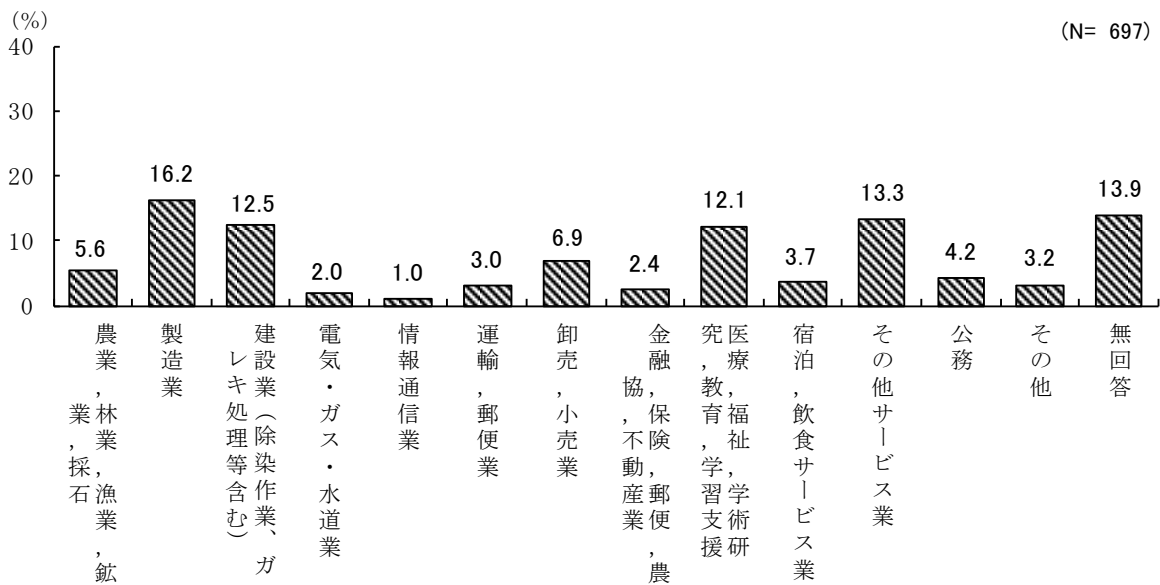


職業について、「無職（職を探していない）」が36.8%と最も多く4割弱となっている。

### 7-1. 業種

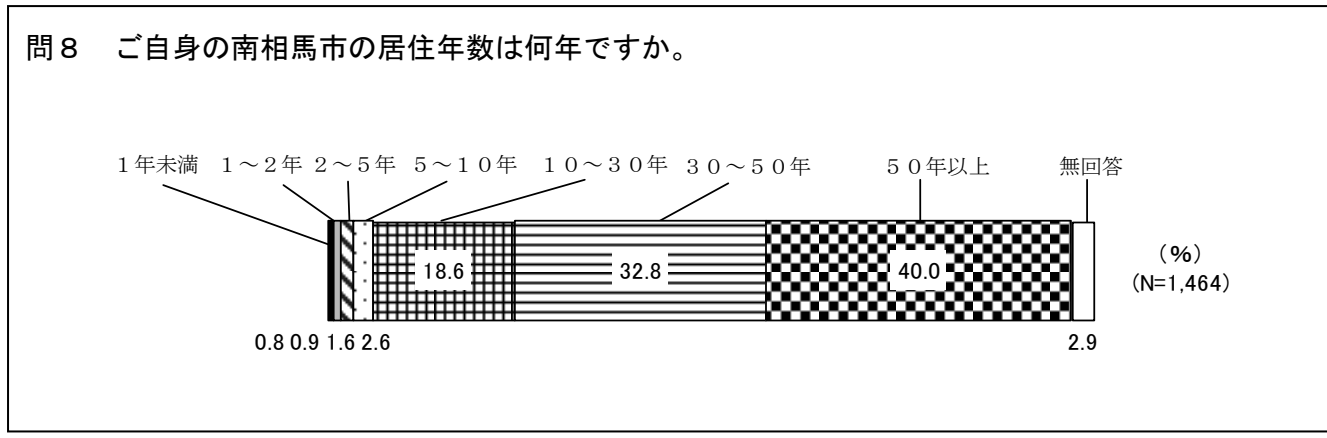
【仕事に就いている方(学生/専業主婦/無職以外)】

問7-1 業種をお答えください。(あてはまる番号1つに○)



仕事についている人（学生・専業主婦・無職以外）の業種は、「卸・小売り・飲食、サービス業」が21.4%と最も多く、次いで「製造業」が12.4%となっている。

8. 居住年数



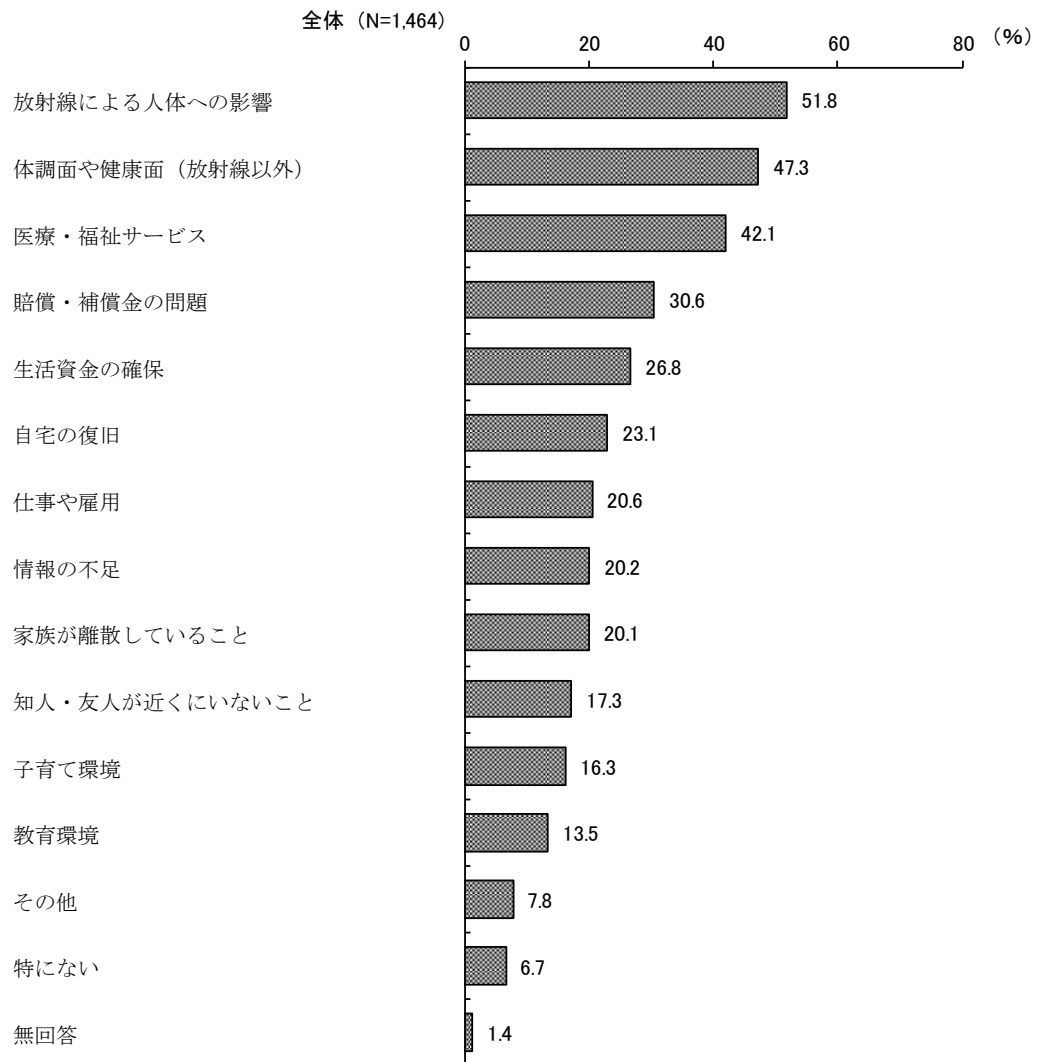
南相馬市の居住年数について、「50年以上」が40.0%、「30～50年」が32.8%と、30年以上の長期にわたり南相馬市に居住している人が多い。

### Ⅲ 調査結果

#### 1. 生活の不安・心配

問9 あなたは現在の生活の中で、不安や心配を抱えていることはありますか。

(あてはまる番号すべてに○)

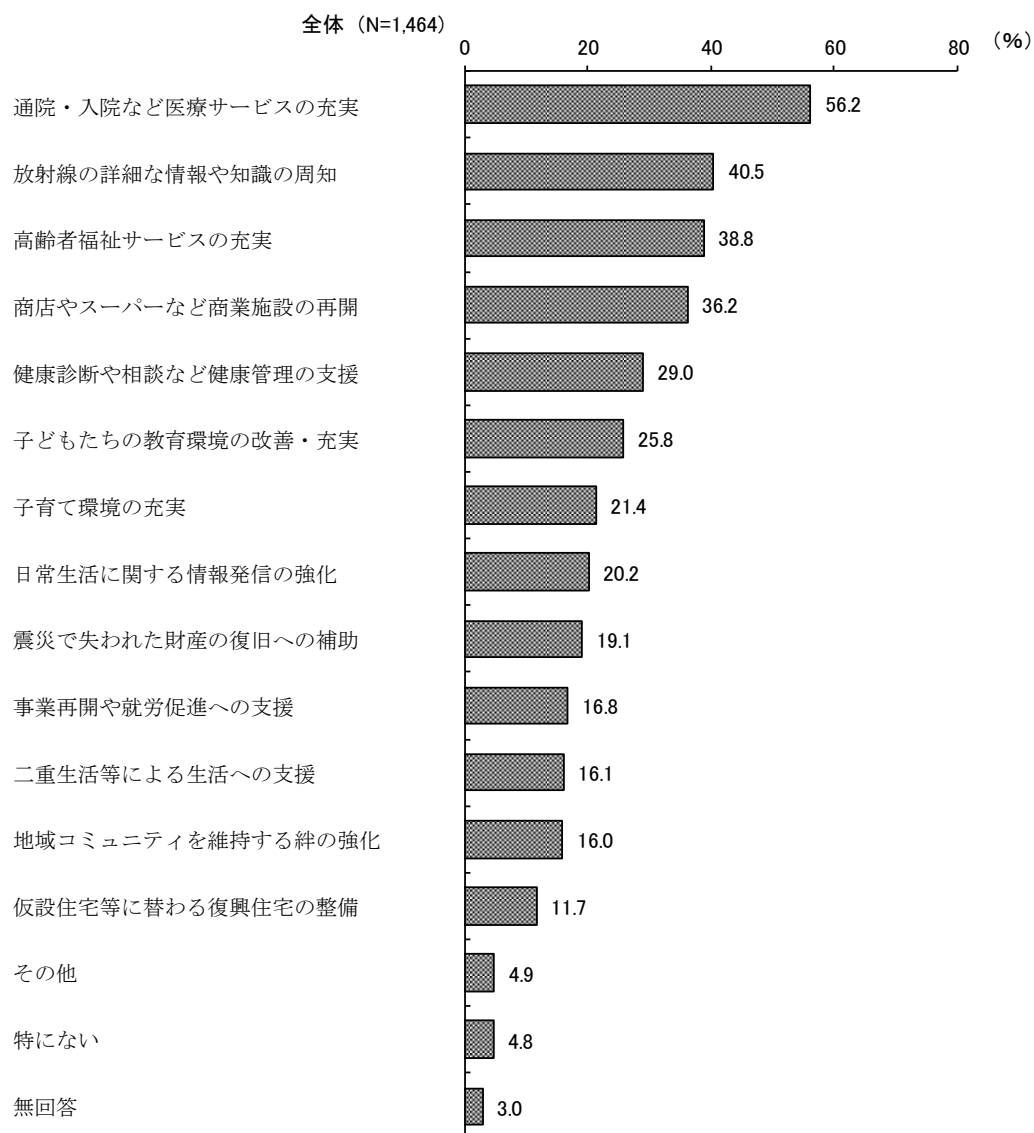


生活で抱えている不安や心配は「放射線による人体への影響」が51.8%と最も多く、次いで「体調面や健康面 (放射線以外)」が47.3%、「医療・福祉サービス」が42.1%となっている。

## 2. 生活改善に必要な施策

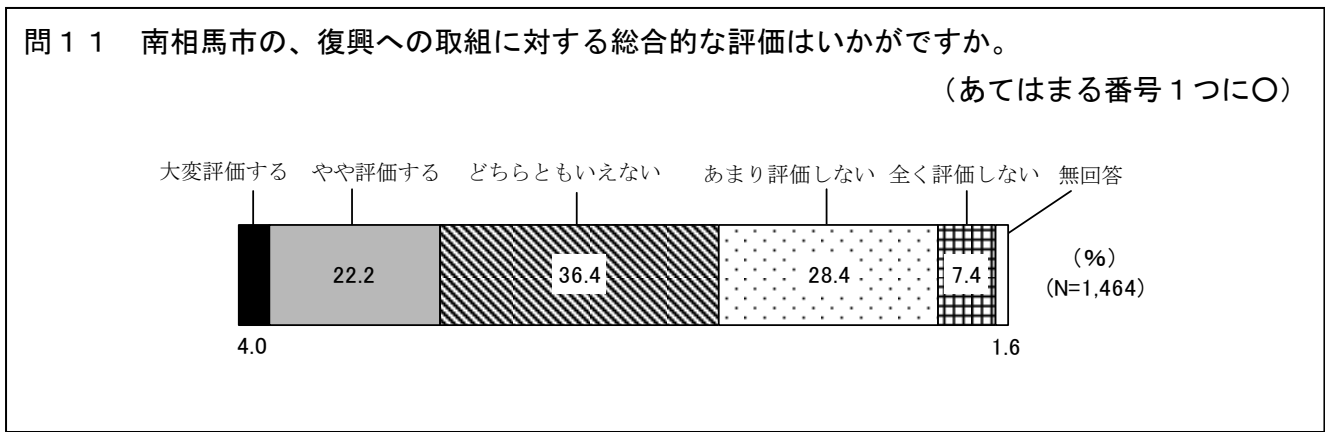
問10 あなたが日常生活の改善に向けて必要と考える施策をお選びください。

(あてはまる番号すべてに○)



日常生活の改善に必要な施策について、「通院・入院など医療サービスの充実」が56.2%と最も多く、次いで「放射線の詳細な情報や知識の周知」(40.5%)、「高齢者福祉サービスの充実」(38.8%)となっており、医療や福祉に関するニーズが高い。

### 3. 復興取組の総合評価



南相馬市の復興への取り組みに対する評価は、「どちらともいえない」が 34.6%と最も多い。

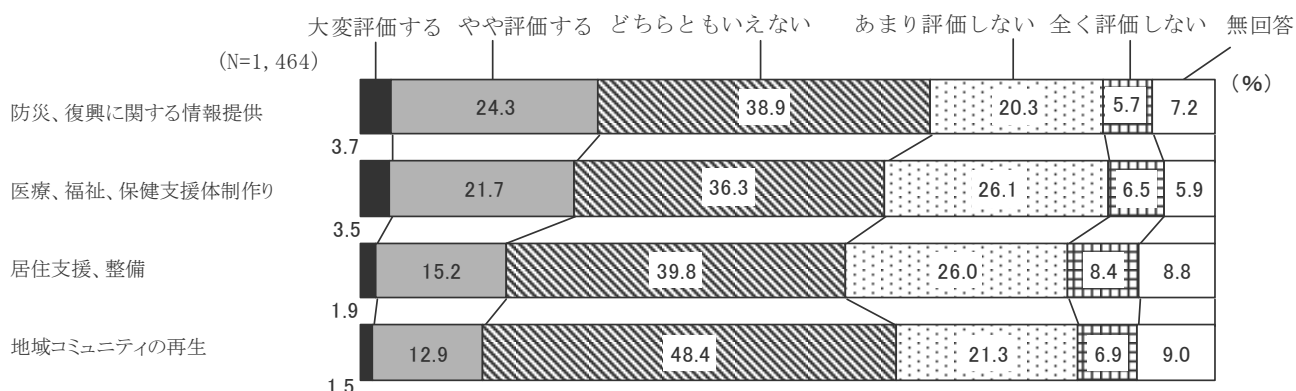
「全く評価しない」(7.4%)、「あまり評価しない」(28.4%)を合わせた《低評価層》は全体の3割半ばを占めており、「大変評価する」(4.0%)と「やや評価する」(22.2%)を合せた《高評価層》を上回っている。

#### 4. 復興取組の各評価

問 1 2 南相馬市の復興計画に対する評価を、各項目それぞれについてお選びください。

(それぞれあてはまる番号 1 つに○)

##### 【市民生活の復興】

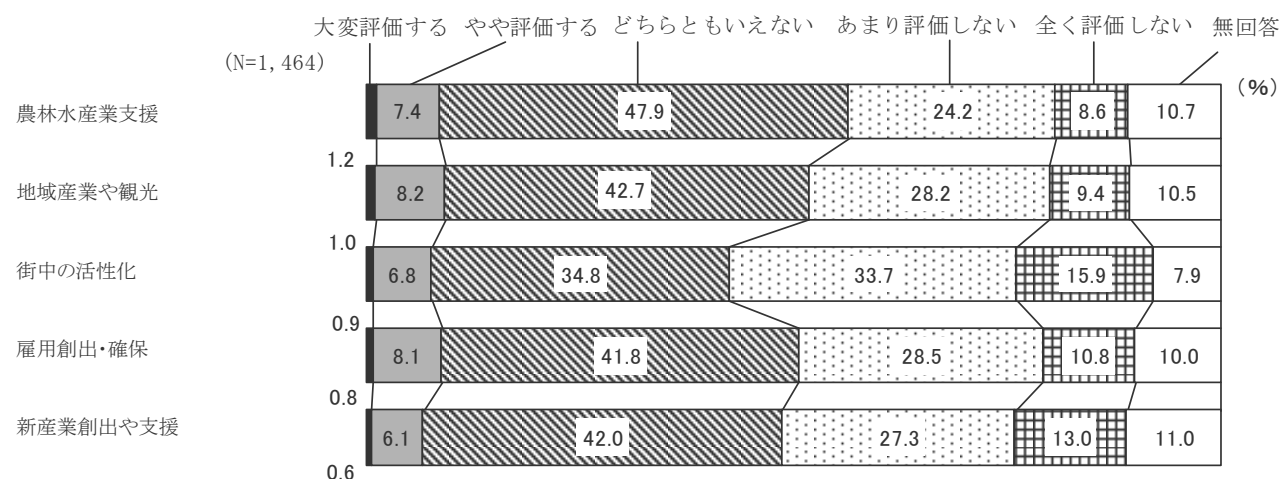


市民生活の復興については、「防災、復興に関する情報提供」「医療、福祉、保健支援体制作り」で《高評価層》が約 3 割と他の項目に比べ評価がやや高い。

問 1 2 南相馬市の復興計画に対する評価を、各項目それぞれについてお選びください

(それぞれあてはまる番号 1 つに○)

##### 【経済の復興】

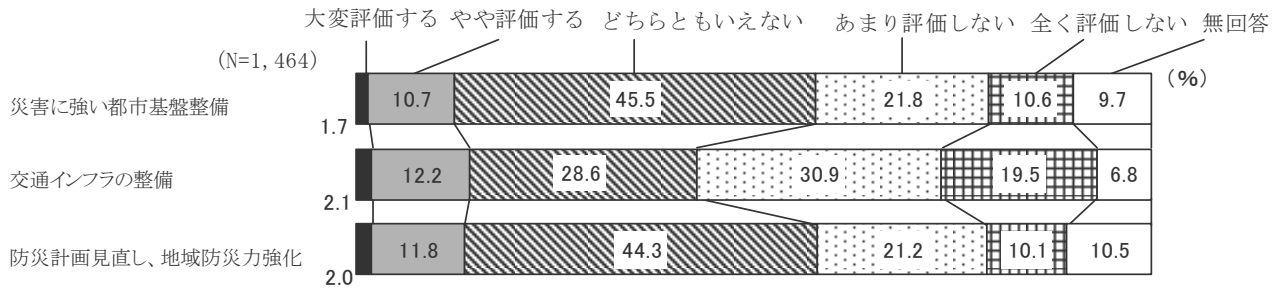


経済の復興については、「街中の活性化」や「新産業創出」で《低評価層》が約 4 割以上となっており、評価が低い。

問 1 2 南相馬市の復興計画に対する評価を、各項目それぞれについてお選びください。

(それぞれあてはまる番号 1 つに○)

【防災のまちづくり】

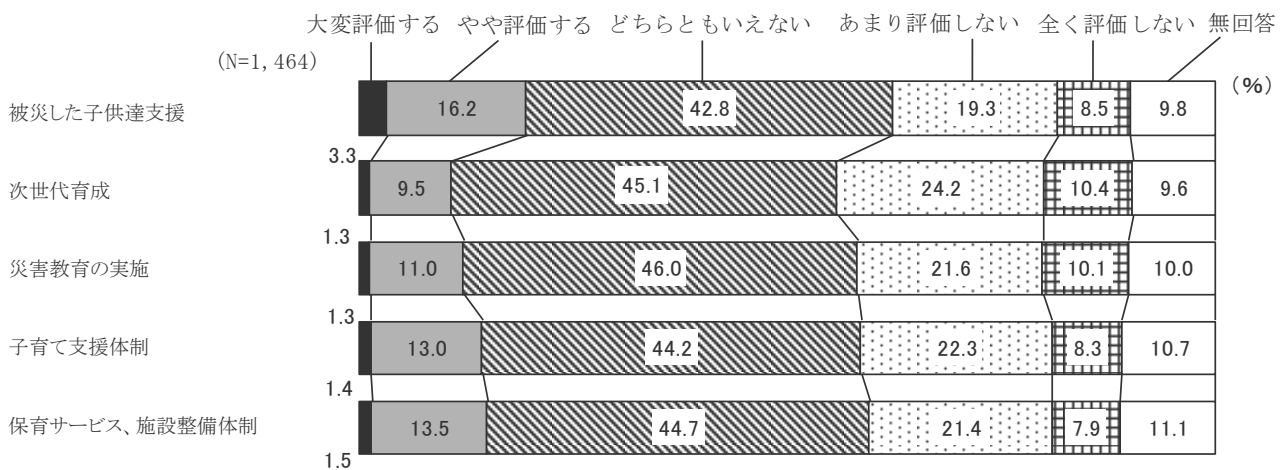


防災のまちづくりについても、全体的に評価が低く「交通インフラの整備」では《低評価層》が過半数を占める。

問 1 2 南相馬市の復興計画に対する評価を、各項目それぞれについてお選びください。

(それぞれあてはまる番号 1 つに○)

【人づくり・子育て環境の充実】

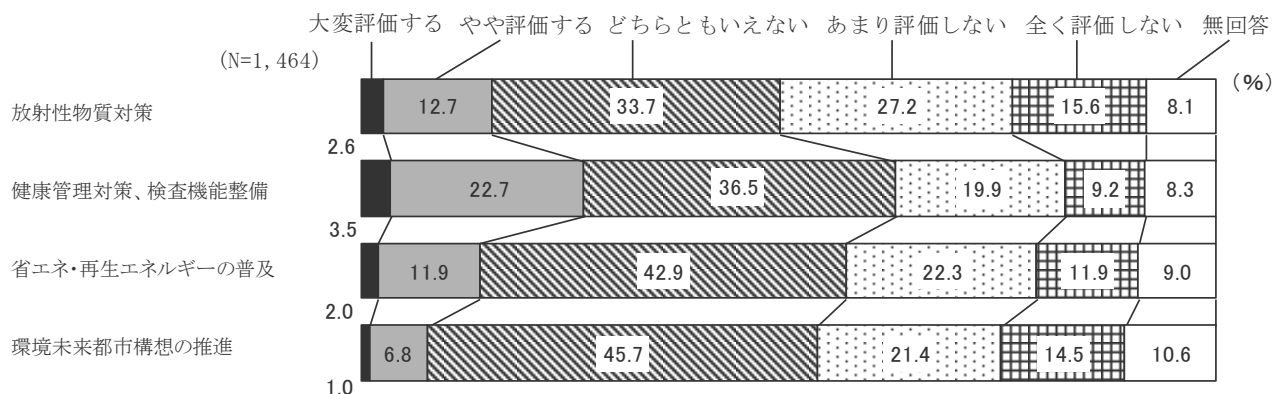


人づくり・子育て環境の充実については、「被災した子供達支援」で《高評価層》が 19.5%と多く、他の項目に比べ評価が高くなっている。



問 1 2 南相馬市の復興計画に対する評価を、各項目それぞれについてお選びください。(それぞれあてはまる番号 1 つに○)

【原子力災害の克服】

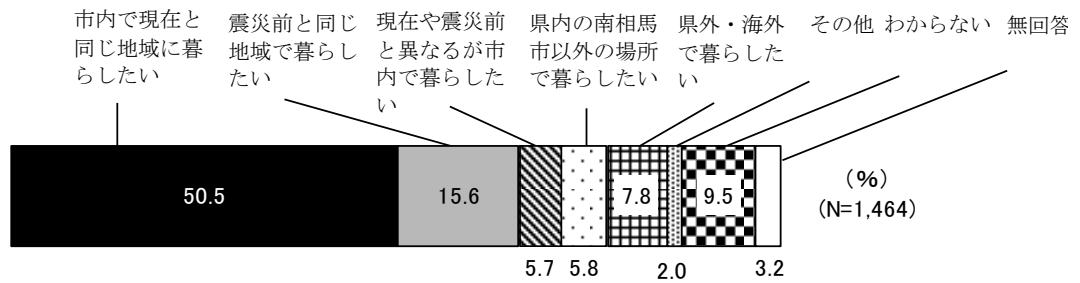


原子力災害の克服については「健康管理対策、検査機能整備」で《高評価層》が 26.2%と評価がやや高い。一方、「放射線物質対策」では《低評価層》が 42.8%と多く、評価が低くなっている。

## 5. 今後の定住意向

問13 あなたは南相馬市に、今後も暮らしたいと思いませんか。

(あてはまる番号1つに○)

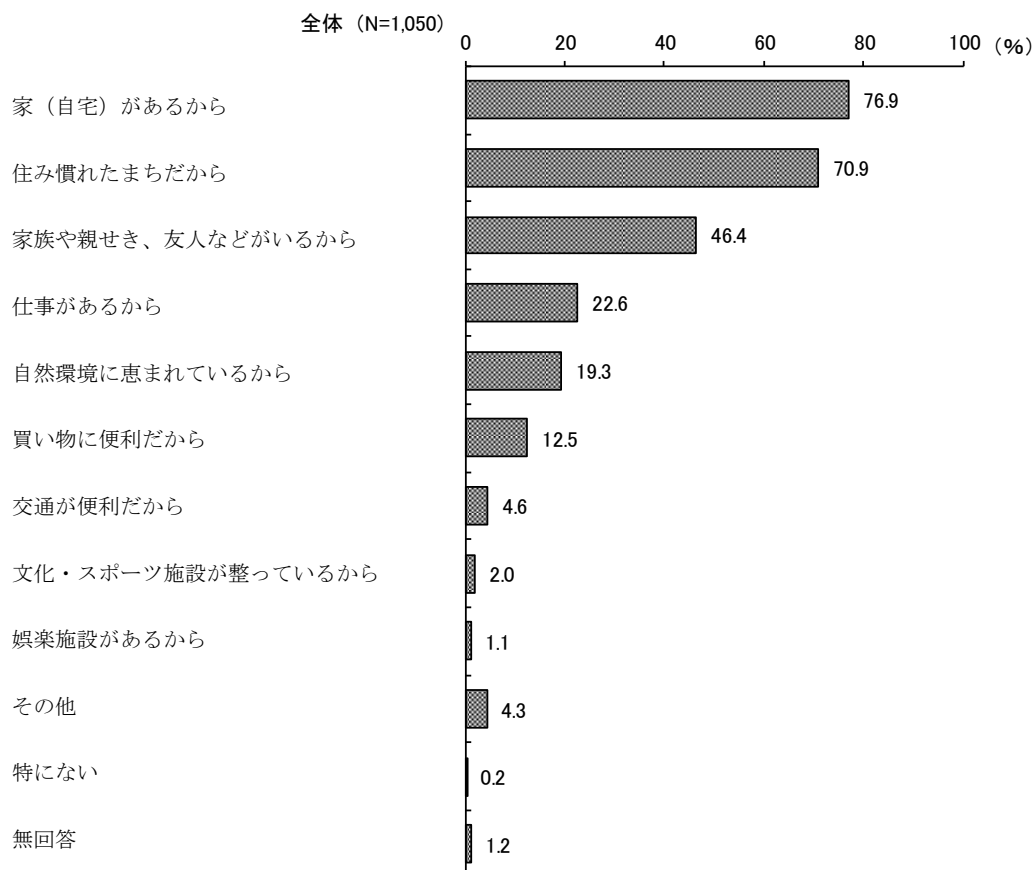


今後の南相馬市での定住意向について、「市内で現在と同じ地域に暮らしたい」との回答が 50.5%と最も多く、「震災前と同じ地域で暮らしたい」(15.6%)、「現在や震災前と異なるが市内で暮らしたい」(5.7%)を合わせると、市内での定住を希望する人は全体の約7割となっている。

## 6. 南相馬市に居住し続けたい理由

【問13で市内で暮らしたい(「1」～「3」)と回答した方にうかがいます。

問13-1 その理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)

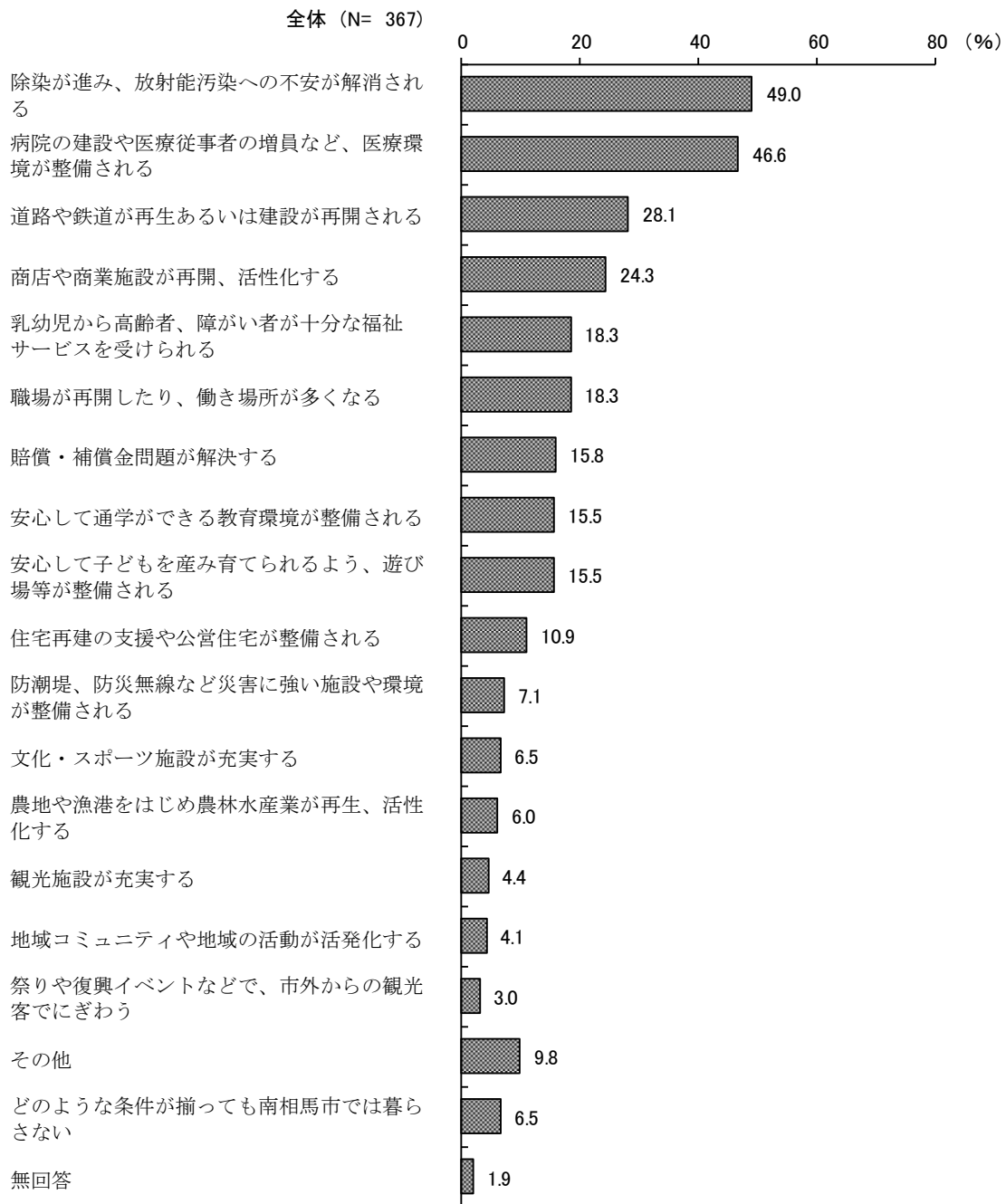


今後市内での居住を希望する人に、その理由をたずねたところ、「家(自宅)があるから」(76.9%)、「住み慣れたまちだから」(70.9%)との回答が多く、ともに7割以上となっている。

## 7. 南相馬で暮らすための条件

【問 13 で市外で暮らしたい、わからない(「4」~「7」)と回答した方におたずねします。】

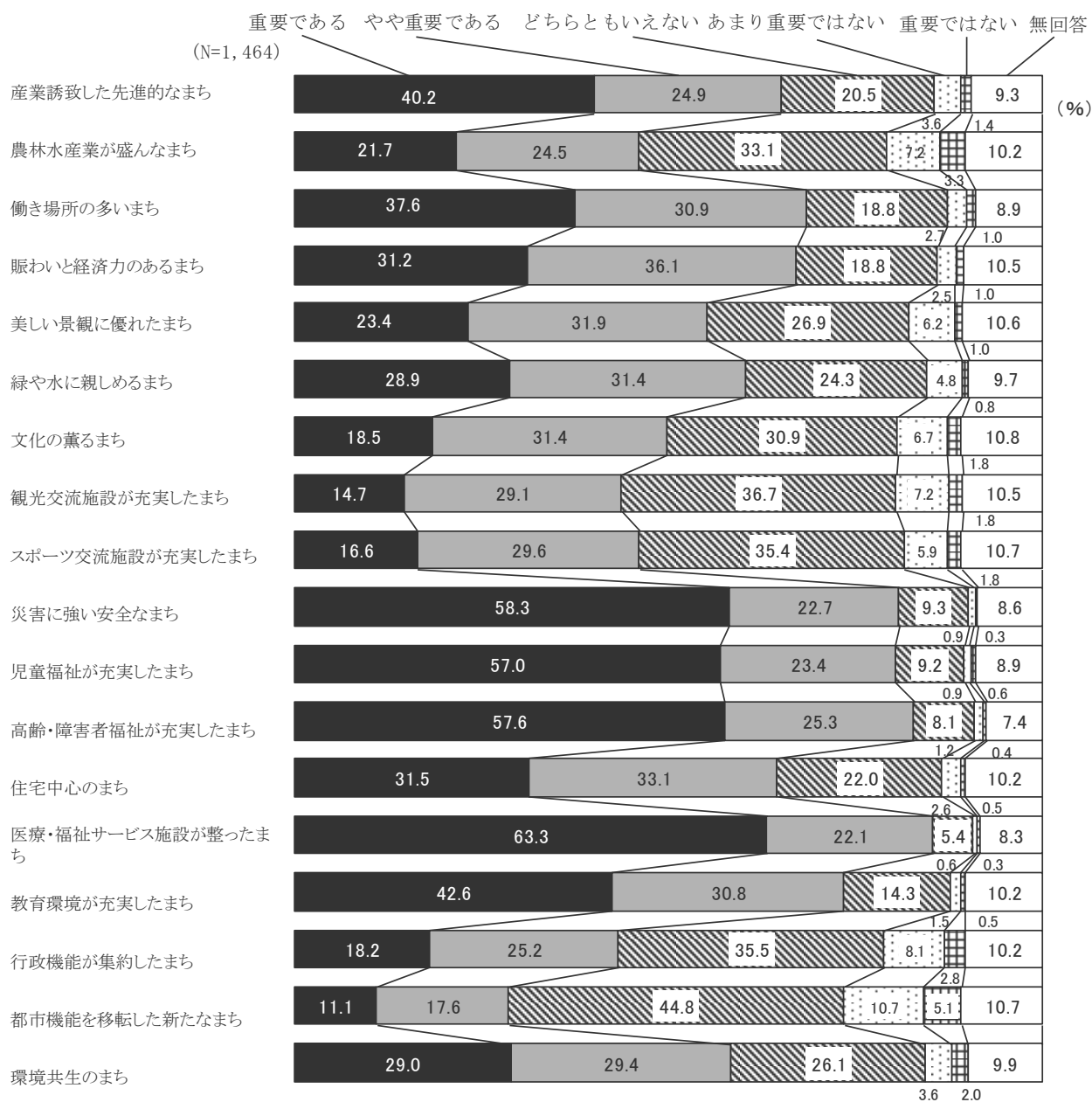
問 13-2 どのようなまちになったら(条件が揃ったら)、南相馬市で暮らしたいと思いますか。  
(特にそう思うもの3つまで○)



今後の居留意向について市外で暮らしたい、わからないと回答した人に南相馬で暮らすための条件をたずねたところ、「除染が進み、放射能汚染への不安が解消される」が 49.0%と最も多く、次いで「病院の建設や医療従事者の増員など、医療環境が整備される」が 46.6%となっている。

8. 将来像の重要度

問14 今後の南相馬市は、どのような「まち」になることが重要とお考えですか。以下に挙げる17の将来像について、それぞれの重要度をお答えください。  
(それぞれあてはまる番号1つに○)

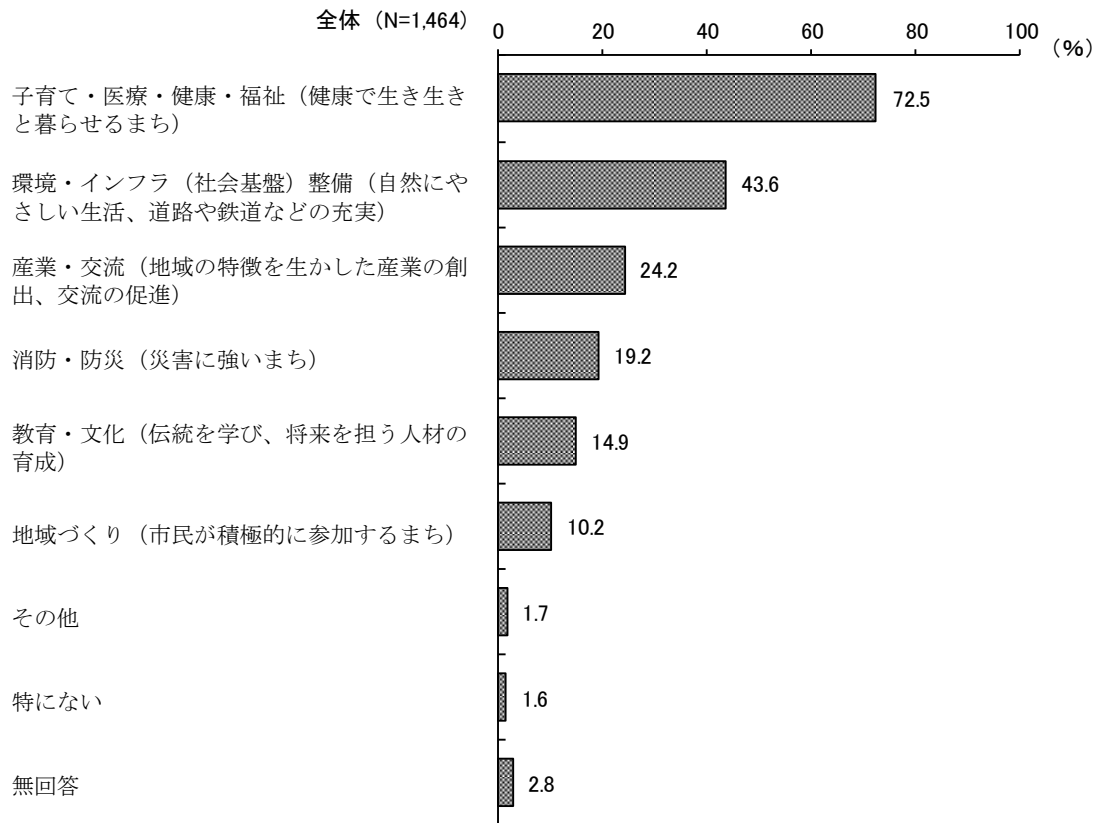


南相馬市の将来像について、「重要である」との回答は「医療・福祉サービス施設が整ったまち」(63.3%)が最も多く、以下、「災害に強い安全なまち」(58.3%)、「高齢者・障がい者福祉が充実したまち」(57.6%)、「児童福祉が充実したまち」(57.0%)となっている。

これらの項目では、「重要である」と「やや重要である」を合わせた《重要度》についても同様に8割以上と高く、防災に加え、医療や高齢者・児童福祉をまちの重要項目と考えている人が多い。

## 9. 力を入れるべき施策分野

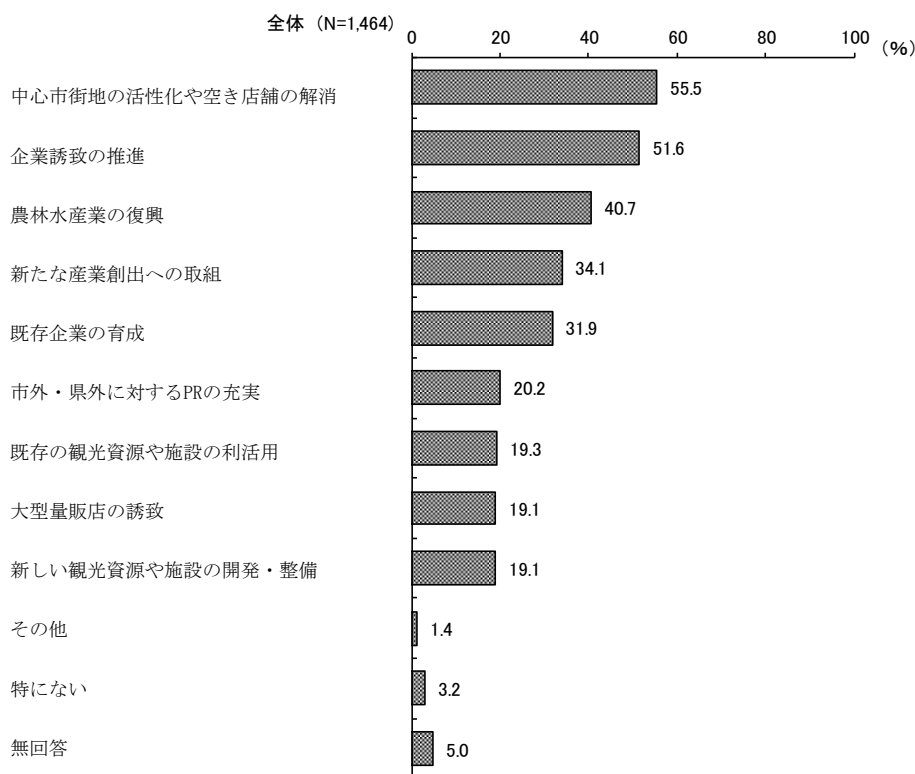
問15 今後、南相馬市が取り組む施策のうち、特に力を入れるべき分野・事項についてお答えください。(特にそう思うもの2つまで○)



南相馬市が取り組む施策で力を入れるべき分野・事項について、「子育て・医療・健康・福祉 (健康で生き生きと暮らせるまち)」が最も多く 72.5%、次いで「環境・インフラ (社会基盤) 整備 (自然にやさしい生活、道路や鉄道などの充実)」が 43.6%となっている。

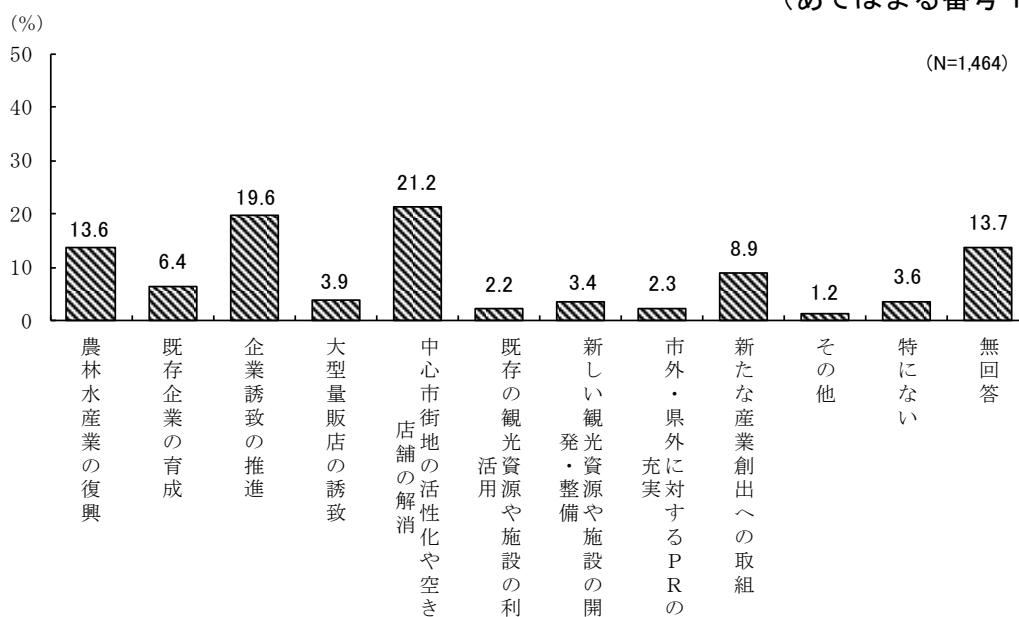
10. 【産業・交流】力を入れるべき事項

問16 今後、南相馬市が取り組む施策「産業・交流」について、力を入れるべき事項についてお答えください。(あてはまる番号すべてに○)



問16-1 問16でお答えになったもののうち、最も力を入れるべき事項は何ですか。

(あてはまる番号1つを記入)

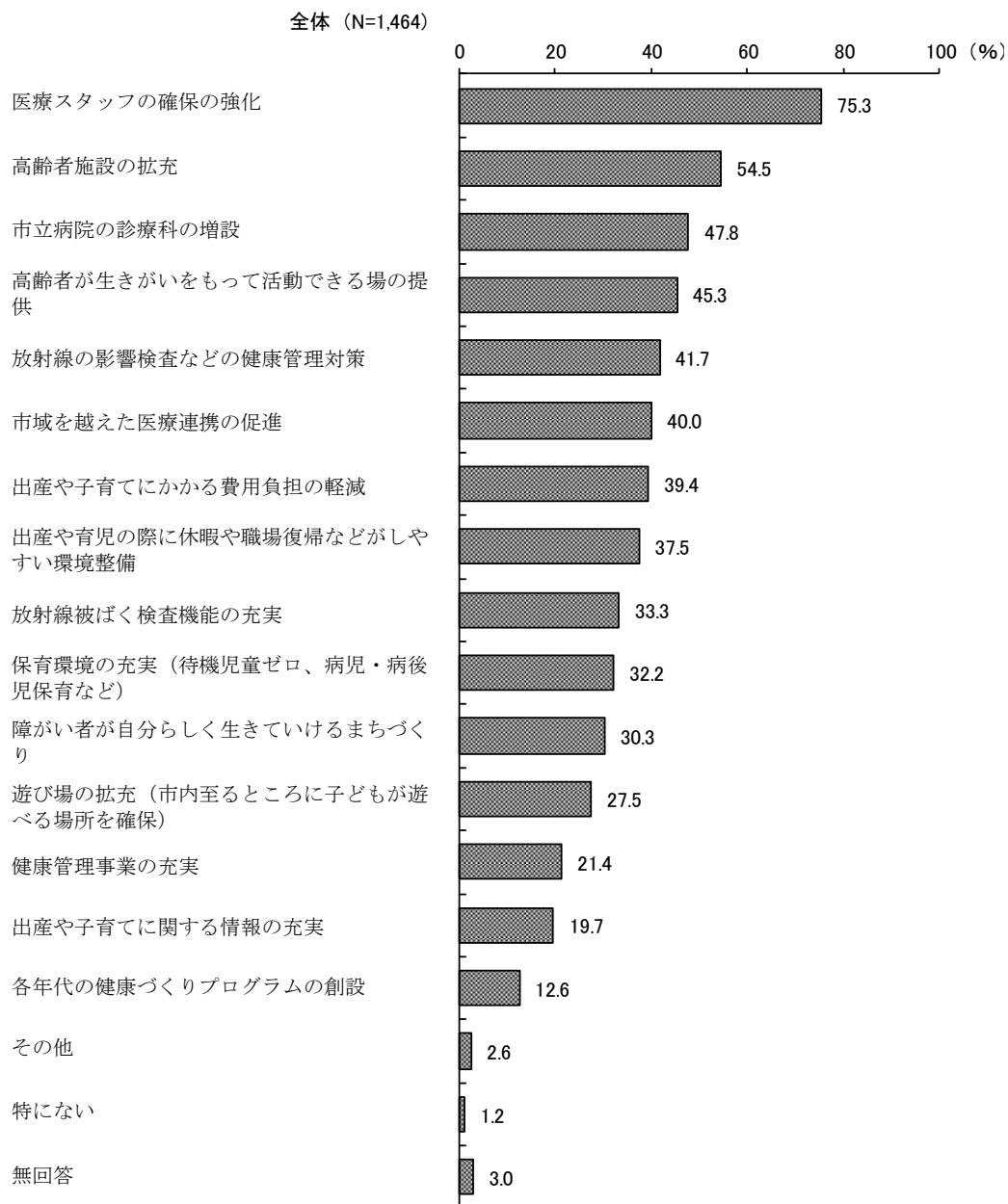


南相馬市が取り組む施策「産業・交流」で力を入れるべき事項については、「中心市街地の活性化や空き店舗の解消」が55.5%と最も多く、次いで「企業誘致の推進」が51.6%となっている。

最も力を入れるべき事項としては、「中心市街地の活性化や空き店舗の解消」が21.2%で最も多くなっている。

## 11. 【子育て・医療・健康・福祉】力を入れるべき事項

問17 今後、南相馬市が取り組む施策「子育て・医療・健康・福祉」について、力を入れるべき事項についてお答えください。（あてはまる番号すべてに○）

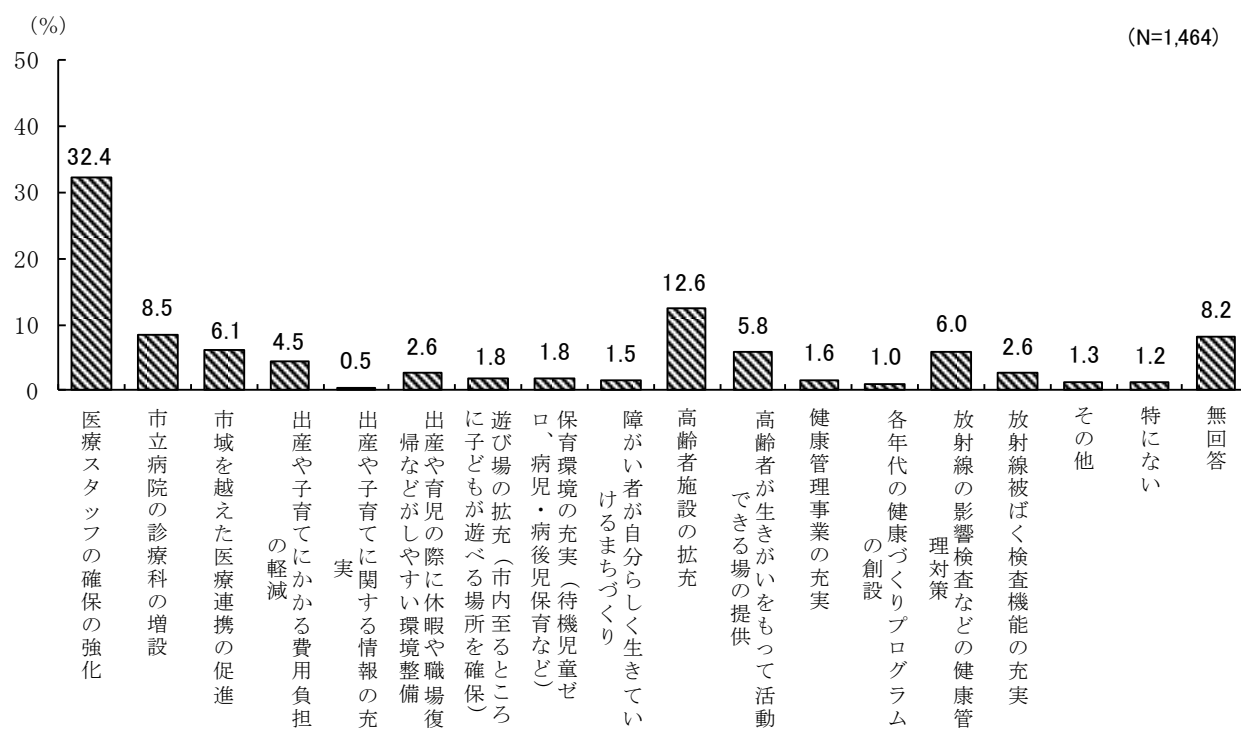


南相馬市が取り組む施策「子育て・医療・健康・福祉」で力を入れるべき事項については、「医療スタッフの確保の強化」が75.3%と最も多い。



問17-1 問17でお答えになったもののうち、最も力を入れるべき事項は何ですか。

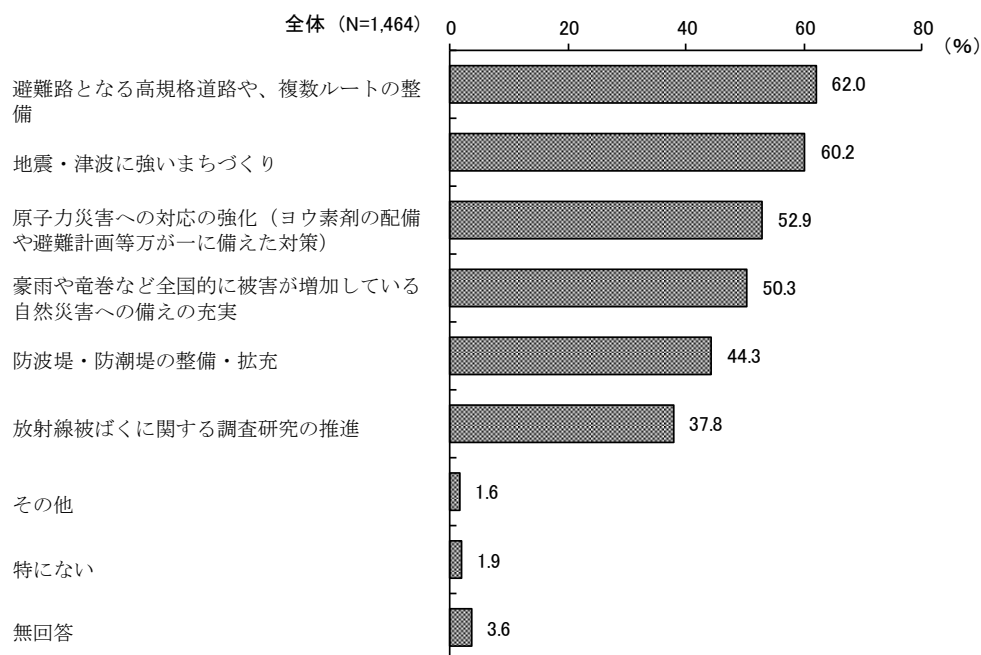
(あてはまる番号1つを記入)



最も力を入れるべき事項についても、「医療スタッフの確保の強化」が32.4%と最も多い。

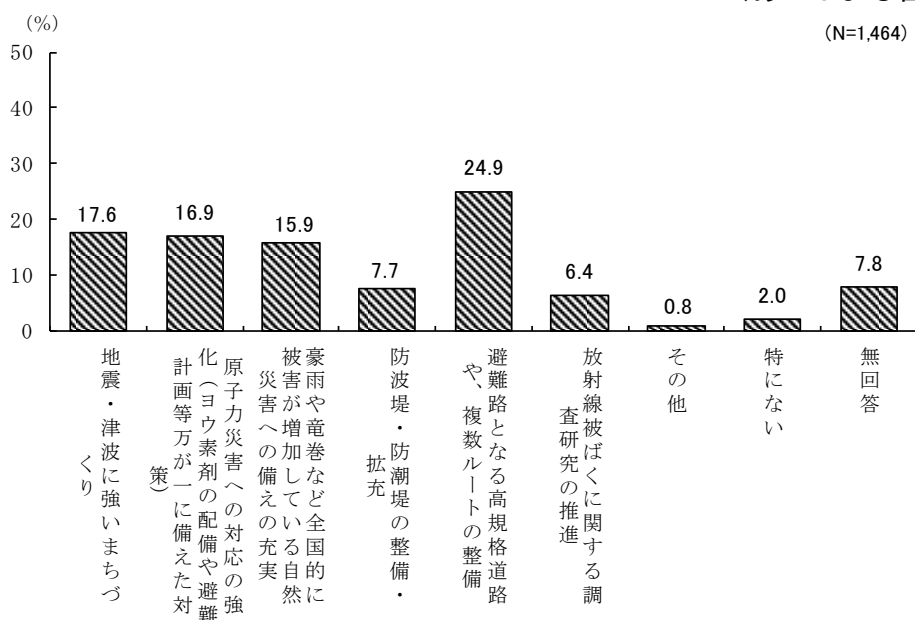
## 12. 【消防・防災】力を入れるべき事項

問18 今後、南相馬市が取り組む施策「消防・防災」について、力を入れるべき事項についてお答えください。（あてはまる番号すべてに○）



問18-1 問18でお答えになったもののうち、最も力を入れるべき事項は何ですか。

（あてはまる番号1つを記入）

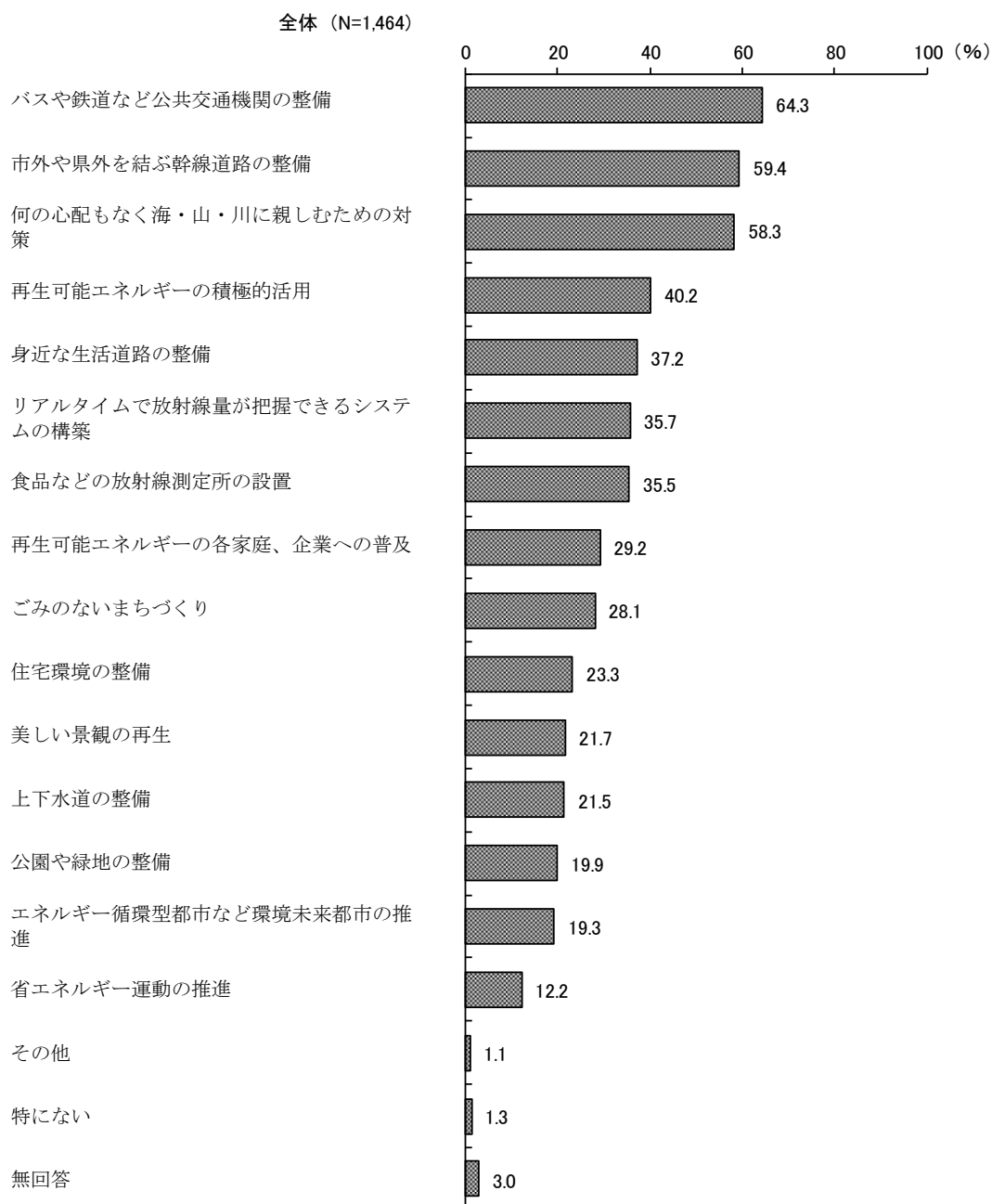


南相馬市が取り組む施策「消防・防災」で力を入れるべき事項については、「避難路となる高規格道路や複数ルート of 整備」が62.0%と最も多く、次いで「地震・津波に強いまちづくり」(60.2%)や「原子力災害への対応の強化」(52.9%)となっている。

最も力を入れるべき事項も同様に、「避難路となる高規格道路や、複数ルート of 整備」が24.9%で最も多い。

## 13. 【環境・インフラ（社会基盤）整備】力を入れるべき事項

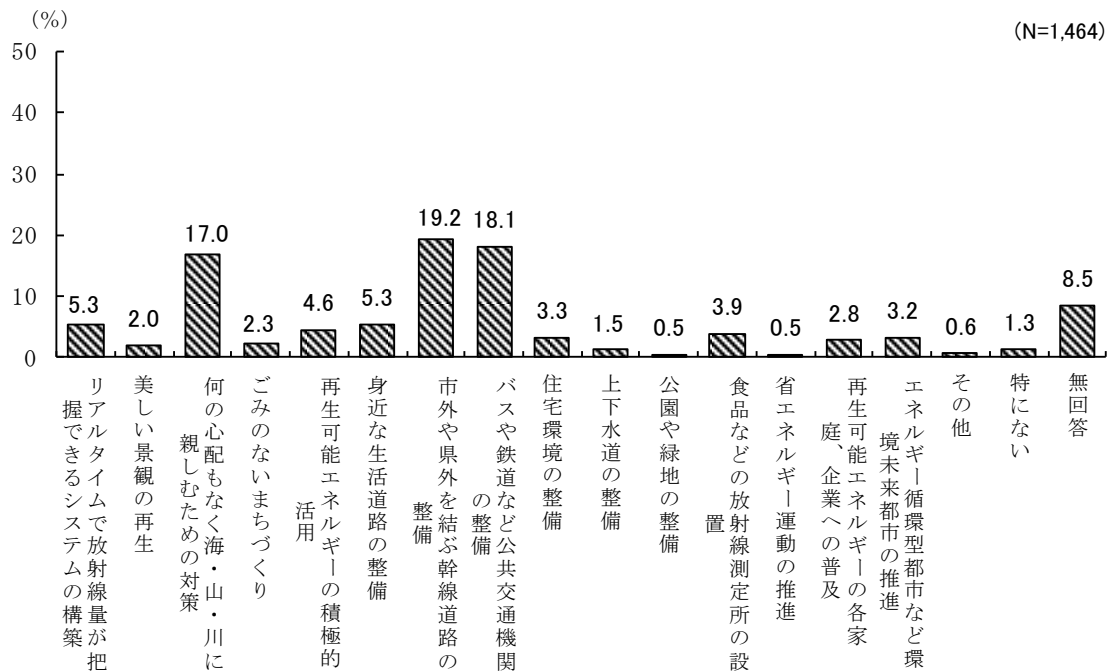
問19 今後、南相馬市が取り組む施策「環境・インフラ（社会基盤）整備」について、力を入れるべき事項についてお答えください。（あてはまる番号すべてに○）



南相馬市が取り組む施策「環境・インフラ（社会基盤）整備」で力を入れるべき事項については、「バスや鉄道など公共交通機関の整備」が64.3%と最も多く、次いで「市外や県外を結ぶ幹線道路の整備」が59.4%、「何の心配もなく海・山・川に親しむための対策」が58.3%となっている。

問19-1 問19でお答えになったもののうち、最も力を入れるべき事項は何ですか。

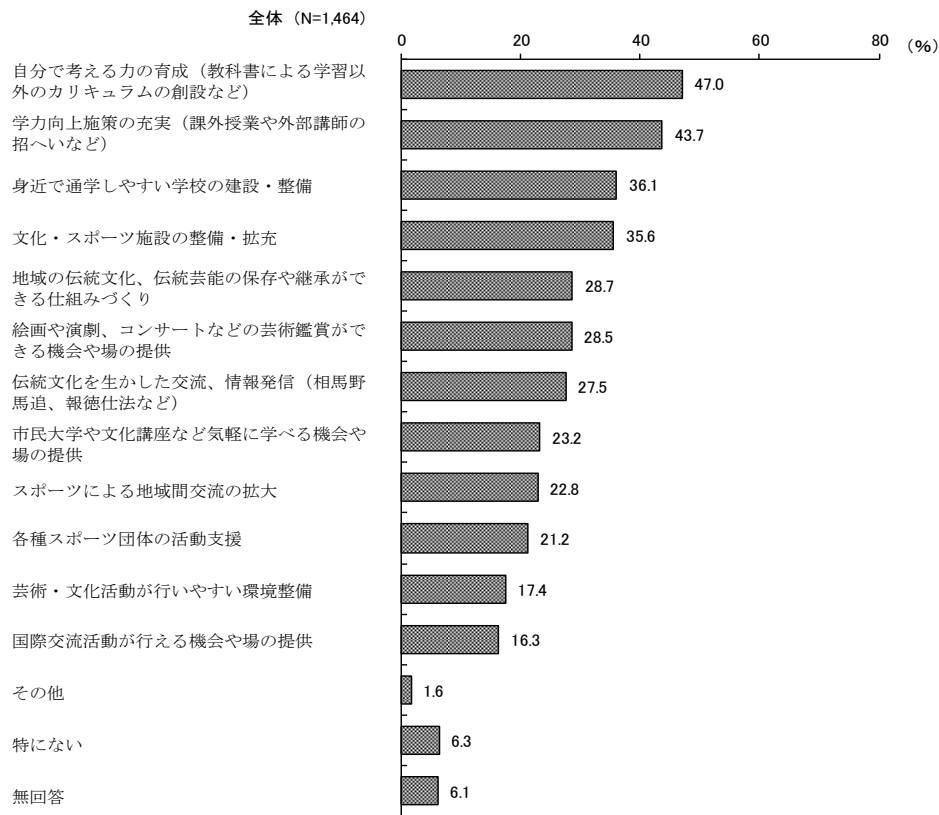
(あてはまる番号1つを記入)



「環境・インフラ（社会基盤）整備」で最も力を入れるべき事項については、「市外や県外を結ぶ幹線道路の整備」（19.2%）、「バスや鉄道など公共交通機関の整備」（18.1%）、「何の心配もなく海・山・川に親しむための対策」（17.0%）の上位3項目への回答が多い。

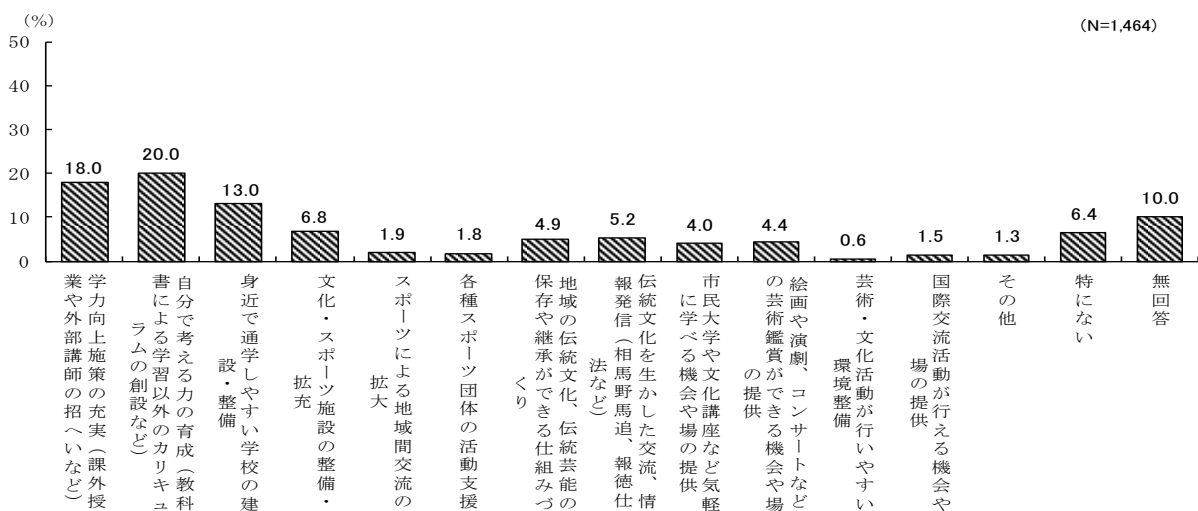
14. 【教育・文化】力を入れるべき事項

問20 今後、南相馬市が取り組む施策「教育・文化」について、力を入れるべき事項についてお答えください。(あてはまる番号すべてに○)



問20-1 問20でお答えになったもののうち、最も力を入れるべき事項は何ですか。

(あてはまる番号1つを記入)

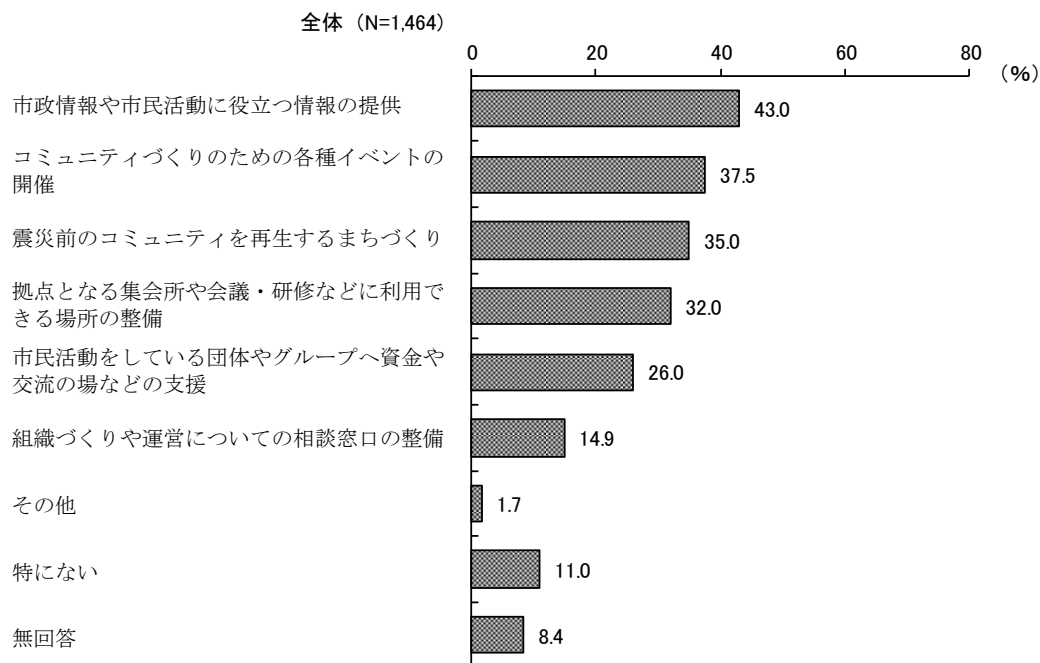


南相馬市が取り組む施策「教育・文化」で力を入れるべき事項については、「自分で考える力の育成 (教科書による学習以上のカリキュラムの創設など)」が 47.0%と最も多く、次いで「学力向上施策の充実 (課外授業や外部講師の招へいなど)」が 43.7%となっている。

最も力を入れるべき事項も同様に、「自分で考える力の育成 (教科書による学習以外のカリキュラムの創設など)」が 20.0%で最も多い。

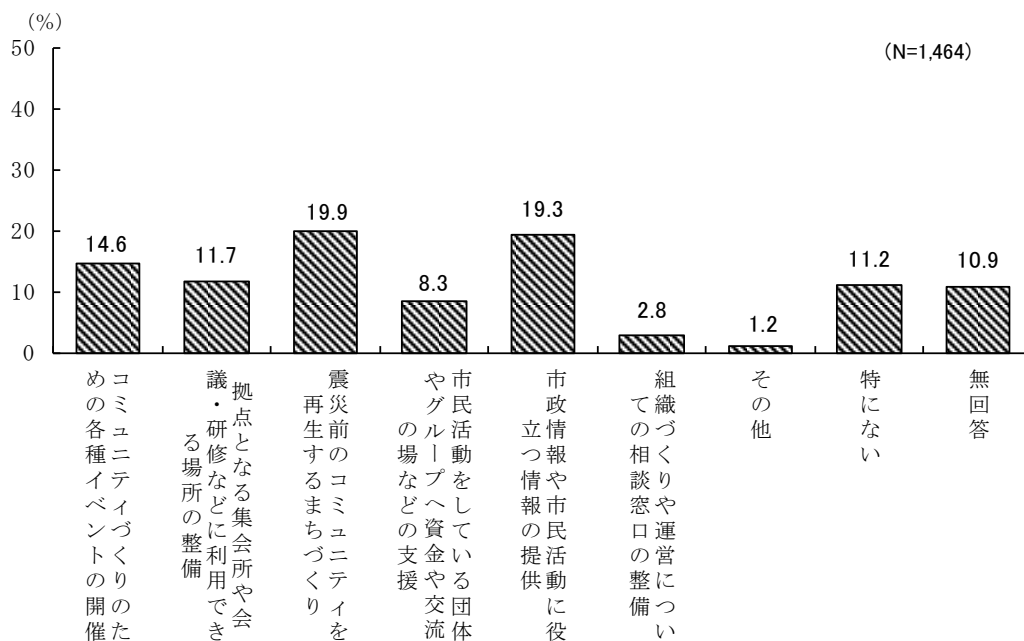
## 15. 【地域づくり】力を入れるべき事項

問21 今後、南相馬市が取り組む施策「地域づくり」について、力を入れるべき事項についてお答えください。(あてはまる番号すべてに○)



問21-1 問21でお答えになったもののうち、最も力を入れるべき事項は何ですか。

(あてはまる番号1つを記入)



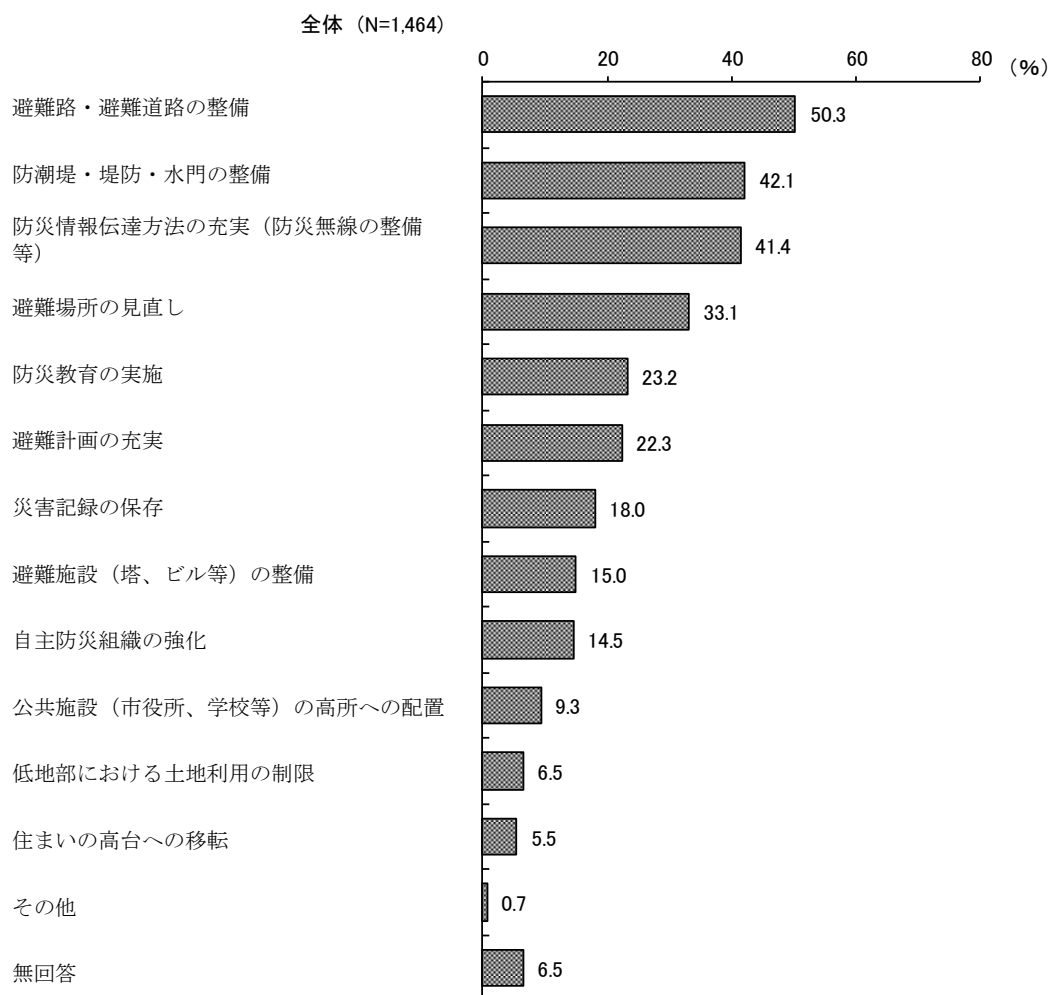
南相馬市が取り組む施策「地域づくり」で力を入れるべき事項については、「市政情報や市民活動に役立つ情報の提供」が43.0%と最も多くなっている。

最も力を入れるべき事項では、「震災前のコミュニティを再生するまちづくり」が19.9%と最も多い。

## 16. 防災・減災のまちづくりに必要なこと

問22 今後、防災・減災のまちづくりに必要と考えることはどのようなことですか。

(特にあてはまる番号3つまで○)



今後、防災・減災のまちづくりに必要なこととしては、「避難路・避難道路の整備」が 50.3%と最も多く、次いで「防潮堤・堤防・水門の整備」が 42.1%と、防潮堤や避難路などハード面の整備が必要と回答する人が多い。